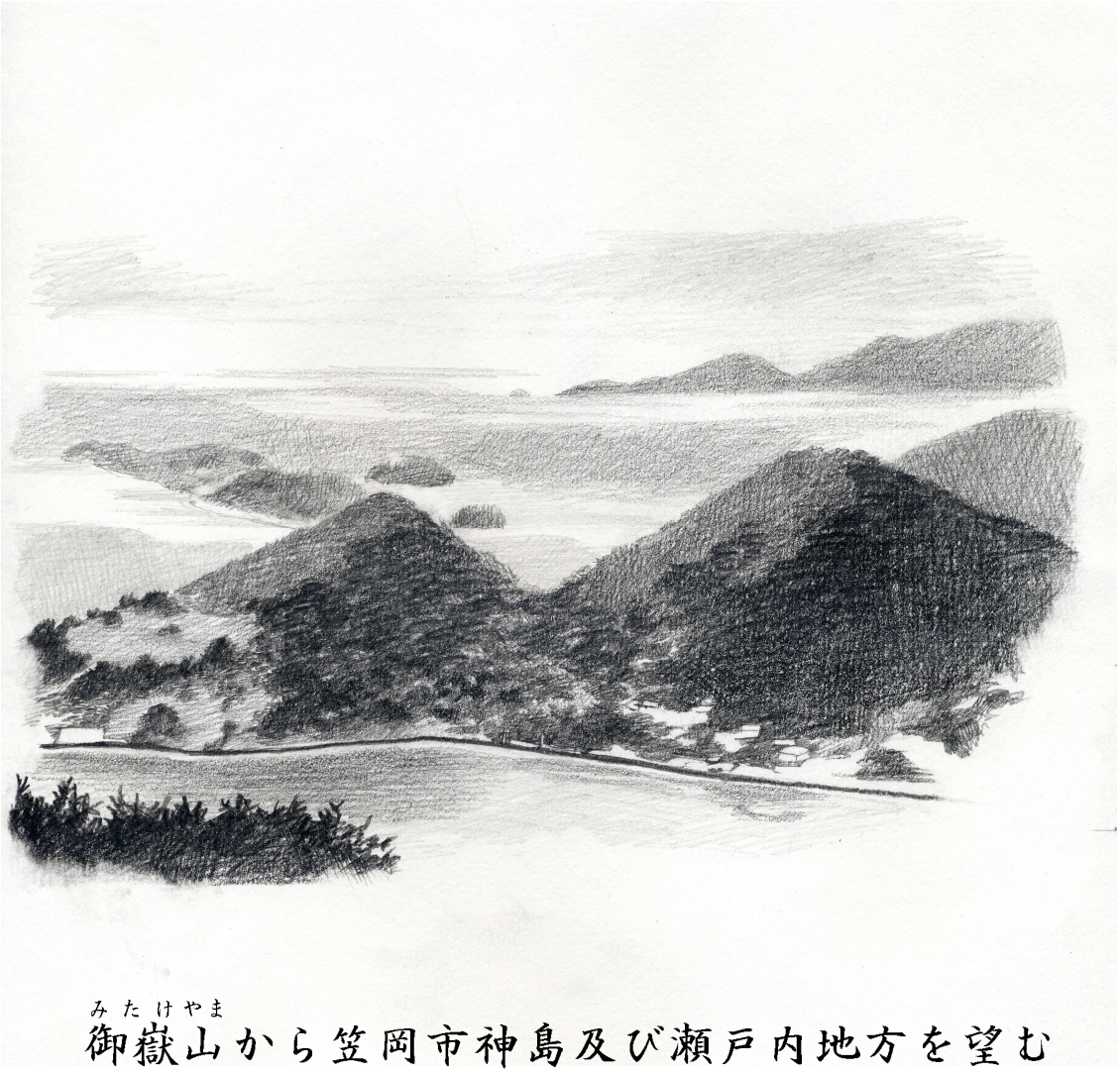
かさおか

発行所
天理教笠岡大教会
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66−1311
FAX 66−1314



御嶽山（みたけやま）から笠岡市神島及び瀬戸内地方を望む
（初代が明治18年から布教を始めた笠岡）

一年間を通しておぢばを賑やかにしよう

1．毎月一千人のおぢばがえり

1．五十万軒にをいがけとおさづけの取次

立教169年
1月号

立教百六十九年の
初春のお慶びを申し上げます

立教百六十九年　教祖百二十年祭の年を健やかなる身上をお借りして迎えさせて頂けました事は、誠に有難く結構な事と喜ばせて頂いております。

昨年は年祭活動仕上げの年に当り、実践項目の実動の総仕上げをしたいとの思いから「全教会一名以上の初席者を御守護頂こう」と申し合わせたところ、心を揃えて一手一つにおつとめ頂き誠に有難うございました。残念ながら数字の上には現われなかったところもありますが、胸を張って教祖年祭を迎えさせて頂きたいと思います。

さて真柱様より「教祖百二十年祭は一月二十六日一日限りですが、立教百六十九年は年祭の年として一年間を通しておぢばを賑やかにして欲しい」との親心をお聞かせ下さっております。成人の足取り止めてはならじとの温かい親心と思わせて頂きます。それにお応えさせて頂くべく笠岡では「一年間を通しておぢばを賑やかにしよう」とのスローガンを掲げて「一、毎月一千人のおぢば帰り」と「一、五十万軒をいがけとおさづけの取次」を実践項目と定めて、実動に邁進させて頂きたいと存じます。

又、百二十年祭の元一日を思案致しますと、教祖御身お隠しの後「さあ〳〵ろっくの地にする。—中略—今からたすけするのやで。—中略—さあ、これまで子供にやりたいものもあった。なれども、ようやらなんだ。又々これから先だん〳〵に理が渡そう。」とのおさしづにありますように、教祖御身お隠しまでは親直々に手を引いてお導き下されたが、御身お隠しの後は私達自らが陽気ぐらし目指して歩むことを急き込まれたと同じように、教祖年祭に向けての三年千日は手を引いて頂いて歩んで来たのと同じで、自らの成人の歩みはむしろ年祭後にあると言えると思います。どうぞ笠岡の理に繋がる皆様方には教祖年祭は一つの成人の区切りであると同時に新たな成人の歩みの始まりである事をしっかり心にとどめて実動に励み、教祖にお喜び頂ける一年になりますよう一手一つにおつとめ頂きますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

笠岡大教会長
上原理一

談話室

お節会のひのきしんを通じて
～感謝する心の大切さ～

弥高山分教会　江村宏幸

突然ですが、今年のお節会には帰られましたでしょうか？　帰られた方は、会場で青いジャンバー、またははっぴを着た若い人が誘導や給仕をしていたのをご覧になられたと思います。この人達は「お節会学生ひのきしん隊」と呼ばれる人達で、全国から高校生と大学生が親里に集まってひのきしんをさせて頂こうと勇んでいます。私もこのひのきしん隊に参加させて頂きました。しかも、今年は班長をしての参加でした。

12月の半ばに本部の学生担当委員会から連絡があり「大学生班(班は大学生班と高校生班に分かれる)の班長をしてくれないか」とのこと。去年までお節会のひのきしんは2回大学生班の班員として参加させて頂いたのですが、実を言うとそれ以外の本部や教区の学生会の行事にはほとんど参加していないため、経験が少ない自分に班長が出来るのだろうかという不安がありました。それでも自分にわざわざ電話してくださったのだからこの機会を生かそうと承諾しました。

1月3日、事前研修があるため他の大学生や高校生より一日早く集合します。この2週間前ほどから自分の祖母が体調を崩しお節会に行くのを断念、その祖母のために本部でお願いつとめを行い、その中で自分は「自分の祖母を助けて頂くために自分はこの期間、誠真実の道を通らせて頂きます」と決意し集合場所に行きました。しかし、自分の周りにいるのは積極的に本部や教区での学生会活動に参加している人達ばかり。自分はその中で孤立してしまいました。唯一の救いは自分の相方(班長は男女一名ずつ)は去年も同じ班の人だったことで、相方伝いに色々な人を紹介して頂きました。

そして4日、班員と顔を合わせたのですが、そこで知ったのは班員の多くが高校生の時から学生会の行事に積極的に参加していること、お節会のひのきしんについても去年が面白かったから今年も参加したという班員が半数以上ということでした。自分も相方も場を盛り上げるという性格ではなかったので、どうしたら楽しく面白くなるだろうかと考え込んでしまいました。

ただ、その不安はひのきしん本番になったらどこかへ行ってしまいました。こっちから何かすることなく、班員からもっと盛り上げようと知恵を出し雰囲気を作ってくれました。おかげでひのきしん中は明るく、大きな缶で運ばれてくる出汁を屈んでやかんに汲むという腰に負担がかかる仕事内容でも積極的に元気に勇んで勤めてくれました。

それでも、ひのきしんのとき以外は班としてのまとまりが弱く、すぐ班からはぐれる人が多かったのです。「自分達の班よりも他の班にいる仲間と話しているほうが楽しいかな」と考えるようになっていました。

自分が班運営に悩んでいた時に、相談した相手が話してくれたのが「感謝の気持ちを大切にしようや、そうしたらみんなの顔も変わってくるよ」という言葉、それを聞いてから些細な事でもありがとうと言うように心掛けました。

そして最終日、今まで不安に感じていたものも少しずつ晴れて最後までみんなが一手一つになって過ごせたのではと感じるようになりました。解隊式の時に、班員のみんなから「この班で本当に楽しかった」と感想が返ってきて、思わず涙してしまいました。自分は本当に非力で頼りなかった

と感じると共に、ただただ班員のみんなに感謝したい一心でした。

この期間が本当に自分にとってひとつ糧になったのは確かです。どうして高校生の時から積極的に学生会に参加しなかったのだろうかと後悔もしましたが、今回参加できたことは本当に勉強になったと感じています。

そして、班員のみんなに出会えたのも神様の巡り合わせだと感じました。よくよく考えれば自分を支えてくれる人がいて、班を盛り上げる人がいて、自分の悩みを聞いてくれる人がいて、バランスが取れていたと思います。何よりも、班員全員が身上も無く最後までひのきしんを勤める事ができたのは本当に奇跡でしかないと思います。

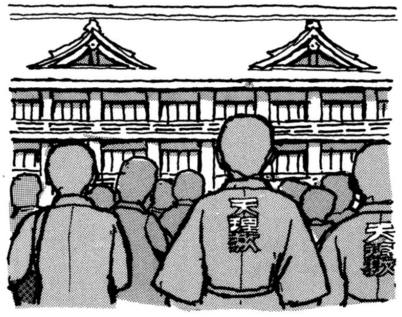
自分はこれから就職活動が本格化しますが、普通の人では体験する事ができないような体験をさせていただいた事に感謝しています。そして、常に感謝する心を忘れずにしたいです。3月には学生おぢばがえりが行われます。自分もぜひ参加して、もう一度班員のみんなと顔を合わせたいと思います。

年祭の想い出　その一

神村分教会前会長　下田輝夫

教祖百二十年祭を迎えさせて頂く大切な時旬に、くだらない私事を長々と書き連ねて、貴重な紙面を汚している事を、大変心苦しく思って居ましたが、今日フト心に浮びまして、年祭の思い出を書かせて頂いたらと。そこで今迄の話は一時中断して、私なりの年祭の思い出を書かせて頂きますので、引き続きお目に止めて頂ければ幸甚に存じます。

修養科を修了(第九十六期 昭和二十四年六月)して七年目に、初めての教祖の年祭を迎えさせて頂きました。昭和三十一年一月二十六日から二月十八日迄の教祖七十年祭です。二代真柱様に依り、おやさとやかたの大構想が御発表になり、教祖七十年祭を目指して、其の第一期工事が着工される事になりました。現在の真東棟から東左第四棟までの工事です。それとお屋敷の拡張整備でした。七十年祭以前の御本部のお屋敷は、黒門から神殿までの広さは今と余り変りはありませんが、教祖殿の裏側にはすぐ傍に道路があって、教祖殿の軒下ぐらいの所を人々が往来していると云う状態で、前は広いが後ろは本当に余裕がないナーと云う感じでした。それが七十年祭に向かって拡張される事になり、現在のように拡張されきれいにお屋敷らしく整備されました。東の方は今の東講堂の東側辺りに、元のつとめ場所の建物が保存建造物として残されて居り、旧別席場の東側には、本部の施設としては何もなかったように思います。別席場から南には、天理中学校がありました。今の第五食堂及餅焼場から東右一棟辺りになるかと思います。



昭和二十八年四月いよ〳〵おやさとやかたの堀方が始まりました。みかぐらうたにある通り、もっこにのうてひのきしん、わしもこれからひのきしん、夫婦揃うてひのきしん、欲を忘れてひのきしん、と連日大勢の方々が勇みに勇んで参加されました。今回の西礼拝場前の土持ひのきしんは、久し振りの土持ちひのきしんで、七十年祭前の頃を思い出し、懐かしい思いで月々参加させて頂きましたが、七十年祭の頃にくらべると今少し元気がないと云うか活気がないと云うか、そんな思いが致しました。それは自分自身の体力の衰えからそう感じたのかも知れません。二十代の時と七十を

過ぎてからとは、気分的には変らないと云っても体力的には大きな違いがあっても不思議ではありません。

七十年祭当時の私は若くてとても元気でした。髪の毛も沢山ありました(これを強調しておきたい)。とにかくモッコを担ぐには誰にも負けない位の自信がありました。直属ひのきしん隊と云うのが出来まして、各直属教会から五日間ひのきしんに参加させて頂くその機会には、その度毎に参加させて頂き、大教会役員で福山で布教所を持って居られ、ひのきしん隊の責任者としてつとめて居られた藤井正三先生といつも一緒に。（以下次回に）

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌一月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「祭」、選五十五句中、笠岡に繋がる教友の方一名、一句が見事選ばれ掲載されていましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

佳詠　東悠分教会長夫人　田林　美智子

節ありて悟り開くや月次祭

▼教祖年祭　No.2

詩　かくしん

一、年祭だ　二〇〇六年今睦月
　世界の友に伝える旬だ
　親の思いを　たすける思いを
　教祖が現身かくされ　百二十年

二、年祭だ　二〇〇六年　如月
　世界の国から教えをもとめ
　つとめ　ておどり　さづけ受けし
　ぢばかんろ台　拝がみ合い

三、年祭だ　二〇〇六年　弥生月
　陽気みなぎる梅の花
　教祖殿に　咲きほこる
　地場へ　地場へと　人の浪

四、年祭だ　二〇〇六年　卯月花
　人間の命やどりて　生まれきて
　神のめぐみ　親の守護
　今教えの親の百二十年祭

【5】天からの手紙読むのはあなたです

自分の中のマイナスをプラスに転じ、跳躍するチャンス、それが病気、あるいは事情とみてはどうでしょう。

例えば病気。身体のどこに原因があり、どう病んでいるのかを突きとめ処方するのが、医者の役目。同時に自らは、どこかに無理があり、生き方・考え方にひずみがあったにちがいないと顧みることも、根本治癒には大切です。

病気や事情は、天からの手紙、読むのは自分。そして天理教が、しばしば、その手助けをしてさしあげられる立場にあるのです。

天理教ホームページより　http://www.tenrikyo.or.jp/ja/top.html

◈学生層育成者講習会

【期　　日】　２月２１日（火）おつとめ後、祭典講話として
【会　　場】　大教会神殿

◈婦人会 委員･直轄委員部長研修会

【期　　日】　２月２２日（水）９時受付、９時半開講。
【内　　容】　９：４５　支部長挨拶
１０：３０　練り合い
１２：００　昼　食
１３：００　大教会長様お話
１４：００　支部総会について
１５：００　掃　除
１５：２０　閉　講
【参加御供】　１、０００円

◈笠岡女子青年おぢばがえり
ーみんなで帰ろう！ぢばへ、おやさとへ>ー

【期　　間】２月２５日（土）・２６日（日）詰所泊
【会　　費】３、０００円
【対　　象】女子青年層
※詳細は各ブロック担当者までお問い合わせ下さい。

◈教祖１２０年祭　学生おぢばがえり大会

「世界の友にをやの思いを」
大会テーマソング「灯～akari」

【日　　時】　立教１６９年（平成１８年）３月２７日・２８日
【内　　容】

前夜祭（２７日夕づとめ後）…東西泉水プール前・南右２棟北側広場
迫力あふれるステージパフォーマンスや数々の模擬店など楽しい企画があり年祭の旬におぢばに帰ってきた道の学生の喜びと活気に満ちた楽しいイベントです。

大会式典（２８日午前９時）…本部中庭
道の学生の指針となる真柱様のお言葉を聞かせていただき、世界たすけのよふぼくとなることを誓い合います。そして学生による決意表明、大会テーマソング「灯～akari」を斉唱し、礼拝場に移動し真柱様を芯におつとめをします。

直属アワー・別席（２８日午前１１時３０分～１５時３０分）…詰所・別席場
笠岡につながる学生が、大教会長様よりお話を聞かせていただき、親睦行事を通してお互いのつながりを深めていきます。また別席を運び世界たすけのよふぼくへの歩みを進めます。

☆大会ホームページ …… http://www.tsa120.com

☆大教会の学生担当委員会では「参加者１００名」の心定めをさせていただいております。一人でも多くの学生さんにお声がけをしていただき、この日が学生達であふれるおぢばになればと思います。原則として教区･支部よりの参加をお願いしますが、教区･支部の団参に都合が悪い方は大教会の学生担当委員までご相談下さい。

◈各行事に参加ご希望の方は、
各ブロックの担当者にお申し込みください

第７７９期修養科募集要項

＊修養科期間

立教１６９年３月１日～５月２７日

＊教　養　掛

３ヶ月間　　中　村　義太郎　（大　教　会　役　員）
１ヶ月目　　猪　原　啓　介　（門司港分教会長）
２ヶ月目　　仙　田　　勉　（出雲川津分教会長）
３ヶ月目　　北　川　治　史　（稲　倉　分教会長）

＊募集要項

・志願者は、３月末日現在で満１７歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を経由して大教会に順序参拝すること。
・２月２５日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
・３ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、５月２９日の昼食後に解散。

＊教　科　書（必須）

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』、『よふぼく手帳』。

＊参　考　書（出来れば持参）

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』（笛・打楽器または三曲）、『おやしき・史跡案内』。

＊携　行　品

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛（男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ）。

＊服　　装

ハッピ及び帯・バンド、長ズボン（又は、それに類するもの）、靴。

書　　類	大教会	詰所	備　　考
「順序参拝票」	○	○	
「別　席　願」	○	○	・「初席願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後に初席を運ぶ者のみ。
「席　　札」		○	
「別席のしおり」	○	○	・願書に日付を入れない事。
大教会　御供	○		・おさづけの理拝戴願の順序参拝も合せて行なう。
本　部　御供		○	・「別席の誓いの言葉」は別席の誓いの日までに覚えること。
「おさづけの理拝戴願」	○	○	・「おさづけの理拝戴願」の順序参拝がまだの者のみ。
「おはなし」	○		・願書に日付を入れない事。
大教会　御供	○		
本　部　御供		○	
「修養科入学願」		○	・御供は任意であるが、慣例により、２００円以上。
「修養科入学事由書」		○	
修養科入学御供	○		
「住民票」または「戸籍抄本」		○	・「戸籍記載事項証明書」、「身分証明書」でもよい。

立教百六十八年十二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様の子供かわいい一条の親心溢れる御守護とお導きを頂いて恙なく過ごさせて頂いてる内にいつしか立教百六十八年の本年もあとわずかとなってまいりました　日頃の御高恩に御礼申し上げつつ今年一年を振り返ってみますと

教祖百二十年祭に向かって三年千日と仕切っての成人の歩みを仕上げの年として充実したものにすべく実践項目の実動を通して「全教会で一名以上の初席者を御守護頂こう」と申し合わせ心を一つに揃えて成人の歩みを進めてまいりましたところ全教会数を上回る二百名近い初席者をお与え頂きました事は誠に有難く感謝の念に絶えません　只全教会で御守護頂くまでには至っておりませんので年祭のその日まで思いを変えずつとめさせて頂く所存でございます　又昨年同様今年も日本のみならず世界中で地震・大風・水つきが発生する等月日の残念立腹をお見せ下さいましたし談合や偽装が発覚した建設業界等の事件を通して我さい良くば今さい良くばの人間の驕り高ぶりの末路をお見せ頂いていかにも助け合う事の大切さをお示し頂いた一年であったように思います　その中道の子のたすけ一条の成人の歩みの上には自由の御守護をお現し下さりお連れ通り下さいました事は誠に有難く勿体ない極みでございます

今年賜りました御守護の数々に改めて御礼申し上げたいと年の瀬の慌ただしさ折柄の寒さ厳しき中も厭いませず今日の日を楽しみに寄り集まりました道の子供達のお歌の唱和と相共に只今からおつとめ奉仕者一同喜び勇んで座りづとめてをどりをつとめて本年納めの月次祭を執り行わせて頂きます　皆のおつとめに寄せる真実の状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さていよ〳〵年が明けますと教祖百二十年祭でございます　共に誘い合わせておぢば帰りさせて頂き成人した姿を親神様教祖に御覧頂きたく存じます　加えて真柱様より来年教祖の年祭の年として一年間通しておぢばが賑わうようにとのお声をかけて頂いておりますので笠岡では「毎月一千人おぢば帰り」を申し合わせて実施させて頂く覚悟でございます

又それを推し進めていく為にも五十万軒にをいがけの実動に邁進すると共におさづけの取次を芯としたおたすけには更に力注いで行く所在でございます

何年親神様には旬々にお聞かせ頂く親の声に応えるべく精一杯に成人の歩みを進める皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして万たすけの上に更なる自由の御守護を賜り人々の心に親心を写して頂いて心澄みきり明るく晴れやかな年末年始を迎えさせて頂けますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百六十九年元旦祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様の尽きせぬ親心と暖かくおおらかな御守護とお導きを頂いてここに心も新たに新年を迎えさせて頂きました　一同寿ぎ心と御礼とを込めまして慎んで新年のご挨拶を申し上げます　明けましておめでとうございます

昨年賜わりました御守護の数々と成人へのお導きに改めて御礼申し上げると共に今年一年更なる成人の道へとお連れ通り下さる事を願いつつ只今から笠岡に繋がるよふぼく一同慶び心も一入に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめて立教百六十九年の元旦祭を執り行わせて頂きます　御前には新春の慶びと感謝の心一杯に折からの寒さ厳しい中も厭いませず夜も明けきらぬ内から寄り集いましたよふぼく信者又これからの道を担う子供達が相共にお歌を唱和し同じ思いに伏し拝む状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さていよいよ教祖百二十年祭の年を迎えました　年祭に向けての成人の歩みを実の有るものにしたいと申し合わせた「全教会で一名以上の初席者を御守護頂こう」との思いは年祭を迎えるその日まで変えずにつとめ切らせて頂く覚悟でございますので僅かな日数ではございますが一人でも多くの初席者の御守護を賜りますようお願い申し上げます　又真柱様から「年祭の年として一年間を通しておぢばが賑わうように」とのお声を掛けて頂いておりますのでそれにお応えさせて頂くべく笠岡では「一年を通しておぢばを賑やかにしよう」をスローガンに掲げ「一毎月一千人のおぢがばえり」「一五十万軒にをいがけとおさづけの取次」を実践項目として実動に邁進させて頂く所存でございます

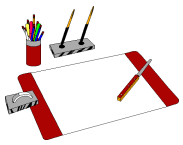
何卒親神様にはどうでも親にお喜び頂きたいと三年千日の実動を糧により大きく成人の歩みを進める皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして万たすけの上に更なる自由の御守護を賜りまして我身思案に明け暮れ身上事情に苦しむ人々の心が世界一列救けたいとの親心に触れ助け合う喜びに満ち溢れた人が一人でも弥増す一年になりますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

・原・稿・募・集・

内　容　①小随筆、②教会・布教所の独自の活動の紹介、
③俳句・和歌・川柳、④教会行事開催後の報告記事　等々

字　数　１０００字前後（８００字～１２００字）
題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。
俳句等は１句からでも結構です。

寄稿先　下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。



郵　便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江３７７
ＦＡＸ：０８６５－６６－１３１４
メール：**tenkasa@kcv.ne.jp**
尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。

大教会だより

◎教会長資格検定講習会修了者

後期　立教168年12月19日終講

弓ヶ濱　森川弘志

亀田山　山下　満

◎直属ひのきしん特別隊

自　立教169年1月11日

至　立教169年1月20日

福山　植田健二

訃報

宮崎可夫氏

福輝分教会長

立教百六十八年十二月二十五日

出直されました。

享年　七十九才

実践項目集計（11月）

百万軒にをいがけ	65,059軒
おさづけのお取次	4,069回
身上事情お願い	828件

名言&迷言

記録的な豪雪に見舞われた山間部の教会では、雪下ろしに違がない。

「2005年 今年の漢字」は『愛』。11年目を迎え、初の〝心あたたまる漢字〟が選ばれたそうだが、「漢字の日」が1月だったら、『寒』になっていたかも知れない。

言霊の幸ふ國の俳句歳時記にも、「厳冬」の季語は八十三の内、実に二十五も「寒」の字を孕んでいる。些か興醒めな、しかし、「秋思」にも似て直感的に物を思わせる趣きがある。

「寒」という字を『御伝』に求めると、5ヶ所に見出されるが、いずれも、その字に照らされて、教祖や先人達の勇み切った姿が、際立っている。

百二十年前のその日も、一入、寒かったに違いない。

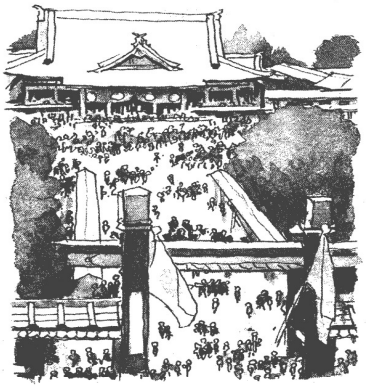
「一同意を決し、下着を重ね足袋を重ねて、拘引を覚悟の上、午後一時頃から鳴物も入れて堂堂とつとめに取り掛った。」

教祖にお目通りし、「一切の疑問も不平も皆跡方もなく解け去り、たゞ限りない喜びと明るい感激が胸に溢れ、言い尽せぬ安らかさに浸った」先人達は、意気軒昂としておぢばを後にした。

その「先人達の足跡の上に、更なる実を積み重ねるべく、全教が勇んで立ち上がり、一手一つに勤め切ることを」切望された三年。

「をやの思いをにをいがけ、内治に心を配りおたすけに誠の心を尽く」した千日。

人押し並べて、直向きに前向きに歩んだ三年千日。

さあ、意気揚々とおぢばに帰らせていただき、限りない喜びと明るい感激を胸に、言い尽せぬ安らかさに浸らせていただきましょう。そして、これからも、変わらぬ心で、勇んで、一手一つに勤め切らせていただきましょう。

（お）